

はぐみ

家庭教育を考えるシリーズ

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

44号

あなたがいるから 私はしあわせ



鳥羽小学校『明るいあいさつ元気にスタート』



中央中学校『赤土魂を発揮』



進徳幼稚園『さくらんぼであそんだよ』



北中山小学校『学校田で田植えの線引き作業』

教育
相談室

カウンセラーの窓から

「うちの子はやる気がなくて集中力も続きません。どうしたら、頑張ってもらえるようになるでしょうか？」

「お家の方からそんな相談を受けることがありません。」

「やる気がない子」を目の前にすると、周囲の大人は「もっとやる気を出したら。」などと子どもを叱咤激励します。

それでも子どもに動く様子がない時、怠けているのではないか、あるいは、育て方を間違えたかも…と思う方も多いでしょう。しかし、その前に、「心のエネルギー」が満たされていないのかもしれないと考えてみてはどうでしょうか。

子どもたちは学校や家庭、地域の活動でいろんな体験を積み重ね、自信をつけ、やる気（＝意欲）を出していきます。一方で、頑張ってみたけれどうまくいかず、周りから認められえないことも経験します。その経験が多いほど、「自分はダメなのか。」という思いが強まり、心

のエネルギーが低下してゆき、「やる気」も失われていくことが、心理学の研究でも検証されています。

では、どうすれば私たちはしぼんでいく子の心を、エネルギーでいっぱい満たす事ができるのでしょうか？

だるいと言って、たびたび保健室にやってくる小学生のシンヤ君（仮名）は、

子どものやる気を引き出すもの

「お母さんが怒るから宿題してるけど、ほんとにはしたくない。だって、僕が考えて書いたのを勝手に直すし、ちっともほめてくれない。」と話しました。

中学生になり勉強や部活に全力投球してきたコウジ君（仮名）は、ぼつぼつと学校を休む日があり、

「お父さんはちっとも僕の事に关心がないみたいや。テストの点数見ても、何にも言ってくれん。」と話します。勉強に身が入らない中学生のカナ

ん（仮名）は、「お母さんに気づいてもらいたくてプチ家出をしたけど、探しに来てもくれなかった。私のことなんかどうでもいいんや。」とぼろぼろ泣きました。

一通り話を聴いてから、私は「今日は1時間目からよく頑張っているよ。えらいと思うけどな。」と声をかけます。そうすると、言われた子は、一瞬「えっ。」と意外な表情をして、「そうか、自分は頑張っ

ていたんだ。」と気づき、少しずつ動き出す事があります。やる気の出ない子には、当たり前前のを認め、受け入れてもらった経験が少ないように感じています。私たちは、ともすると、子どもを周囲の子や兄弟と比較して「できる」「できない」と見てしまいがちです。できて当然と思える行動でも、時には丸ごと認め、ほめてあげることで、心のエネルギーが満たされ、「やる気」も引き出されていくことを、子どもたちの声は教えています。（T.S）

青少年健全育成 鯖江市民大会
明日を担う青少年 守り育てよう
日時 平成25年9月22日(日) 12時45分～
会場 鯖江市嚮陽会館 (桜町2丁目7-1 TEL:52-5789)
日程
12:45 オープニングセレモニー
13:15 開会式
13:30 実践活動報告
14:00 講演会 講師 荒川 典子氏 (福井家庭教育研究所長)
15:30 閉会式

※託児あります。当日受付で申し込みください。

【主催】青少年健全育成鯖江市民会議
【問合先】鯖江市教育委員会生涯学習課 TEL53-2256(直通)

「はぐみ」は、家庭のあり方についてみなさんと一緒に考えていきたいと発刊しております。子育てのヒントになればと思います。ご意見をお聞かせください。
鯖江市教育委員会生涯学習課 TEL 53-2256

愛情のシャワーを

いっばいかけて!!



毎日の子育てを楽しんでいますか。子育ては難しいですね。でも、子どもは日々成長します。成長していく中で、一番大切なことは周りの親や大人など、多くの人との温かい関わりだと思います。

たくさんさんの愛情のシャワーの中で、子どもたちは健やかに豊かな心を持った人間に育っていくのです。

シャワー不足はSOS

思春期になると、様々な心の問題が出てきて悩んだり、引きこもってしまったり、時には、暴力的になったりします。そんな子どもたちの多くは「自分を認めてほしい」「やさしく愛情をかけてほしい」というSOSを出しているのです。そんな、思春期の子たちと話をしてみると、乳幼児期に十分な愛情のシャワーをあびていないことがわかります。



乳幼児に愛情はかけ過ぎと言うことはありません。特に幼児期には、おんぶや抱っこなどたくさんスキンシップをして、「心の愛情」をふりそそいだ子育てが大切なのです。

自分で決めるクセ

子どもは小さくても、自分で考え、判断することができます。幼児だからとか言わず、小さい頃から、自分で決めさせる「自己決定の場」を作ってあげましょう。時には時間のかかることもありませんが、自分で決めたことがうまくいくと、やがてそれが自立心へとつながります。



あなたがいるから幸せ

子育ては、大変です。まして仕事を持ち、家事も全てなさっている方などは、毎日が必死で、ゆとりもなく、つついしかることが多くなっていますか。一日一回でもいいので、子どもにスキンシップをして



「あなたがいるから、私はしあわせ」と笑顔で言ってみてはいかがでしょう。子どもたちは、きつと「自分は愛されているんだ」と幸せな気持ちになるに違いないと思います。

「絶えず持ち続けたい感動」

涓滴

震災後のボランティアに参加した中学生が、体験発表の場で、最後に次のようなことを話したといっています。

「僕は、中学校に入り、自分自身の座右の銘は何だろうと探しはじめました。かっこいい座右の銘を考え、その言葉通りに生きたいと考えました。そして四字熟語の中から、座右の銘を探しました。そんな時期、東日本大震災が起こりました。僕は、何かをしてみたいという思いが高まり、ボランティアに参加し、活動したり交流したりしているうちに考えを変えました。『相手の幸せになることをすることが、自分の幸せになる』と思うようになり、それを座右の銘にしました。」と。

このように、中学生は、被災地の人の関わりの中で、周囲の「そばにいてくれてありがとう」という思いを受け取り、真の生きる喜びに気づいていったようです。これが、考えを変える原動力になりました。

さて、子育てを考えると、この中学生の「相手の幸せになることをすることが、自分の幸せになる」の言葉をヒントにしたいと思います。子育ての原点は、赤ちゃん誕生時の思いです。「元気ですくすく育ってくれば、それで幸せだ。」そんな思いで育ててきたはずです。

ところが、大きくなるにしたがって「勉強ができる子に」「行儀のいい子に」という注文がついてきます。

子どもは、先の中学生が語ったように、「自分とは何か」の答えを出すために、そして「人と人との間で生きる」ために生まれてきたのです。愛情をもってじっくり関われば、子どもたちは自立していきます。「あなたがいてくれたから、わたしは幸せ」。お家の方が、あの生まれた時の感動をそのまま絶えず伝え続けていけば、必ず子どもたちにも伝わり、受けついでくれることでしょう。

涓滴とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。